

事務事業名		大船渡市社会福祉協議会復興ボランティアセンター運営補助金事業				☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業		
政策体系	政策名	04 安心が確保されたまちづくりの推進				事業期間		予算科目 会計 款 項 目 事業 01 03 01 01 09		
	施策名	12 とともに支え合う地域福祉の推進								
	基本事業名	01 地域福祉の充実								
根拠法令		大船渡市復興ボランティアセンター運営事業補助金実施要綱				☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 24 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入				
所属	部課名	生活福祉部地域福祉課								
	課長名	三上 護								
	係名	福祉推進係	電話	27-3111						
	担当者	金野幸恵	内線	182						
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(※期間限定複数年度のみ)				
震災後、大船渡市社会福祉協議会で設置・運営を行っている復興ボランティアセンターの運営費を補助する。 ・復興ボランティアセンターの事業 応急仮設・みなし仮設住宅等からの引越しの手伝いをはじめ、草取り、泥出し、個人宅の片付け等市民からのニーズに応じてボランティアを派遣。 ・運営費の使途 ボランティア送迎用車維持費、送迎委託費等						総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金		
								都道府県支出金		
								地方債		
								その他		
								一般財源		
								事業費計(A)	0	
人件費	正規職員従事人数									
	延べ業務時間									
	人件費計(B)	0								
	トータルコスト(A)+(B)	0								

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標																		
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 市民からの土地清掃、泥出し、引越し等のニーズにボランティアを派遣 今年度計画(今年度に計画している主な活動) 前年度と同じ	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア 復興ボランティアセンター</td> <td>所</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	ア 復興ボランティアセンター	所	イ		ウ		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>カ 市民</td> <td>世帯</td> </tr> <tr> <td>キ ボランティア受入人数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	カ 市民	世帯	キ ボランティア受入人数	人	ク	
		名称	単位															
		ア 復興ボランティアセンター	所															
		イ																
ウ																		
名称	単位																	
カ 市民	世帯																	
キ ボランティア受入人数	人																	
ク																		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 (直接の対象) ・社会福祉法人大船渡市社会福祉協議会 (間接の対象) ・市民、ボランティア希望者	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>サ ボランティア活動者</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>シ 作業件数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	サ ボランティア活動者	人	シ 作業件数	件	ス										
		名称	単位															
サ ボランティア活動者	人																	
シ 作業件数	件																	
ス																		
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) ・運営費補助金を交付することにより、できるだけ多くのボランティア活動が行える。 ・市民へボランティア活動を理解してもらい、ニーズに応じたボランティアを派遣をしてもらう。																		
		④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) ・協力して福祉活動に取り組む。																

(2) 総事業費・指標等の推移				年度	23年度（実績）	24年度（実績）	25年度（実績）	26年度（実績）	27年度（実績）	28年度（目標）
投入量	事業費	財源内訳	単位	千 円						
			国庫支出金	千 円						
			都道府県支出金	千 円						
			地方債	千 円						
			その他	千 円						
			一般財源	千 円	0	2,900	1,400	1,048	995	
	事業費計（A）			千 円	0	2,900	1,400	1,048	995	0
	人件費	正規職員従事人数	人		1	1	1	1		
		延べ業務時間	時 間		20	20	20	8		
		人件費計（B）	千 円	0	80	80	80	32	0	
トータルコスト(A)+(B)			千 円	0	2,980	1,480	1,128	1,027	0	
⑤活動指標			ア	所		1	1	1	1	
			イ							
			ウ							
⑥対象指標			カ	世帯		14,616	14,782	15,008	15022	
			キ	人		4,300	1,852	1,549	762	
			ク							
⑦成果指標			サ	人		4,300	1,852	1,549	762	
			シ	件		562	426	298	165	
			ス							

事務事業ID	1526	事務事業名	大船渡市社会福祉協議会復興ボランティアセンター運営補助金事業
--------	------	-------	--------------------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？			
震災後、大船渡市社会福祉協議会に設置され、平成24年度から市の補助金がないと円滑な運営ができないため補助金を支給した。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？			
震災後に運営してきたものであるが、復興ボランティアの受入が少なくなってきたため、平成28年度から大船渡市社会福祉協議会運営補助に統合する。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？			
平成25年度から活動日数等を縮小しているが、市民からのニーズはまだあるので、対応していきたい。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	復興ボランティアセンターの活動は、市民とボランティアの方々が協力して取り組むことにより、地域福祉の推進につながった。	
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	被災者の自立支援、地域福祉事業の活動として復興ボランティアセンターの運営は必要であり、円滑な運営のため市補助金は必要だった。	
有効性 評価	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	市民のニーズに応じ、ボランティア派遣を行う社会福祉協議会の活動目的になっていた。	
	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	市民から寄せられるボランティア活動ニーズは、生活(復興)状況の変化により変わってくるので、その都度業務の見直し等を行しながら、円滑な運営を行った。	
有効性 評価	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	市民のニーズに応じたボランティア派遣が出来なくなることにより、被災者の自立支援や生活支援の妨げになる。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	復興ボランティアの受入が少なくなってきたため、平成28年度から大船渡市社会福祉協議会運営補助に統合する。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	平成28年度から大船渡市社会福祉協議会運営補助に統合したことにより、削減することができる。	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	平成28年度から大船渡市社会福祉協議会運営補助に統合したことにより、削減することができる。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	平成28年度から大船渡市社会福祉協議会運営補助に統合したことにより、削減することができる。	

事務事業ID	1526	事務事業名	大船渡市社会福祉協議会復興ボランティアセンター運営補助金事業
--------	------	-------	--------------------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 震災後に運営してきたものであるが、復興ボランティアの受入が少なくなってきた。																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☒ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☒ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 平成28年度から大船渡市社会福祉協議会運営補助に統合する。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							

4 事務事業の2次評価結果	(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	地域福祉課長	三上 護

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☒ 一部記述不足のところがある ☐ 記述は十分なされている ② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☒ 一部に客観性を欠いたところがある ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																						
(2) 2次評価者としての評価結果 ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 市民ニーズの適正な把握が必要となる。																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☒ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☒ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) ボランティアの市民ニーズも減少傾向にあることから、社会福祉協議会では、平成28年度は、従来のボランティアセンターへの統合することとしており、当該補助金は廃止する。	(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持			×																		
	低下		×	×																		

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
